

## 第19回 国内最古の人物埴輪セット—石屋古墳—

奇しくも『松江市史』「史料編2 考古資料」が刊行される2011年度末の3月に、松江考古学のあゆみに新たな1ページを刻む大きな発見がありました。松江市東津田町の石屋古墳から出土した埴輪が、国内最古の人物埴輪セットであることが確認されたのです。



埴輪の出土状況(造出しの上面)



推定復元した埴輪(馬、倚座人物の椅子部分、力士の下半身)

※島根県立古代出雲歴史博物館提供

東光台団地東端の大橋川を見渡す丘陵上に、国指定史跡の石屋古墳があります。石屋古墳は一辺40mの方墳で、今から34年前の1978(昭和53)年に、松江市教育委員会が発掘調査し、墳丘裾にある造出し部分から大量の埴輪片が出土しました。これまでも、人物埴輪や馬形埴輪などが確認されていましたが、部分的な復元作業にとどまっていた。

このたび、島根県教育委員会(古代文化センター・古代出雲歴史博物館)により石屋古墳出土埴輪の再整理作業がなされ、人物埴輪のうち力士と倚座(いざ)人物、家形埴輪、器台(きだい)形埴輪、蓋(きぬがさ)形埴輪といった、これまで知られていなかった種類の埴輪が確認されました。

国内での各種人物埴輪のセットは5世紀後半には確認でき、断片的な資料から5世紀中頃の近畿地方の巨大な前方後円墳において登場すると推定されていましたが、今回、出雲の古墳において、ほぼ同時期に、多様な人物埴輪のセットが確立していることが確かめられました。また、近畿地方で出土している初期の人物埴輪は配置状況が不明ですが、石屋古墳出土の埴輪は配置状況や並べ方がおおよそ判明しており、初期の人物埴輪群の全体像を解明するうえでも一級資料といえます。

このように、初期の人物埴輪群が出雲の首長墓で発見されたことで、人物埴輪セットが最初に登場すると考えられてきた大仙古墳(伝仁徳天皇陵)など、近畿地方の巨大な前方後円墳の築造に、出雲の豪族が関与していた可能性がでてきたのです。『日本書紀』には、出雲出身の野見宿禰が相撲の開祖と埴輪作りの始祖として登場します。今回の発見は、この伝承の議論に一石を投じたこととなります。

石屋古墳出土の埴輪の整理作業は現在も進行中です。さらなる新たな発見を期待したいものです。なお、これに関する速報展「復元!!日本最古級の出雲の人物埴輪」展が5月21日まで島根県立古代出雲歴史博物館であります。ぜひ、お出かけください。

(平成24年4月1日 原始古代史部会 西尾克己)